全国教研in高知

全国からのべ4，000名の参加で大成功

教育研究全国集会2022高知集会が、8月18～21日に高知市内の12会場で開催されました。対面での開催は3年ぶりです。4日間でのべ約1,600人が来場し、オンラインではのべ約2,500人が視聴しました。

開催時期がコロナ第7波のピーク時と重なり、全国から高知行きをあきらめた参加者も少なくありませんでしたが、30分科会（分散会を含めると50近く）で280本（高知高教組14本）を超えるレポートが発表され、対面とオンラインによるハイブリットでの意見交換が行われました。

現地企画の様子

【1日目】

開会全体集会（オンラインのみ）では、全国で約1400人が視聴しました。現地実行委員長の鈴木大裕さん（教育研究者、土佐町議）は、ウクライナ危機に乗じて改憲や軍拡、核共有など「勇ましい」ことを言って人々の不安をあおる日本の政治家について触れ、「教育にかかわる私たちが自らの頭で考え、本気になって話し合い平和への覚悟を新たにする必要がある」と訴えました。

記念講演では、法政大学名誉教授の田中優子さんが、ジェンダーや夫婦別姓の問題などについて言及し、誰もが個性を伸ばして自由に生き抜くことができる社会を実現させるためにもダイバーシティ（多様性）を包摂していくことの重要性を強調しました。その中で自身が大学総長時代につくった大学憲章について述べるなど、こうした社会の実現には教育の果たす役割が極めて大きいことを語りかけました。

現地企画「ビキニの海のねがい」では、前々日に収録した地元・高知の子どもたちも参加したよさこい踊りや平和を願う歌の合唱、幡多第五福竜丸の被災事件などについての学習の取り組みの紹介や紙芝居の実演がありました。

【2日目】

5つのフォーラムが各会場で開かれました。実行委員長の鈴木大裕さんがコーディネーターを務めたフォーラム「GIGAスクール構想・教育DXをジャックせよ！」には、オンラインを含めて272人の参加があり、会場も超満員となりました。

フォーラム「開かれた学校づくり」の様子

太平洋学園高校生徒のみなさん　国際中学校卒業生のみなさん　奈半利中学校生徒さん

太平洋学園高校生徒のみなさん

太平洋学園高校生徒のみなさんは、県内の中高生がパネリストとして参加・発表し、生徒の意見が反映されるしくみがあることの重要性を訴えました。「土佐の教育改革」以来、受け継がれてきた「子どもが主人公」の精神が、今も学校づくりに生かされていることが分かりました。

【3・4日目】

分科会と各種交流会が行われました。高知に来られなかった分科会の司会者や共同責任者、レポーターもいましたが、各会場に特設された機器で全国と会場をオンラインで結び、実践を交流しました。晩には、高知城ホールの各会場で、高知高教組主催のウクライナの避難民支援のための平和コンサートや、高知の地酒の魅力を知る「楽酒会」が開催されました。

分科会で高知高教組のレポーターが発表する様子

3年ぶりとなった対面の全国集会でしたが、高知高教組は現地実行委員会のメンバーとしてさまざまな企画運営に加わるとともに、現地要員として各会場の準備や受付、警備などに協力しました。

また、20年前に高知で開催された全国集会の経験を活かして、高退協の先輩方に全面的にご支援をいただきました。この場を借りて感謝を申し上げます。

（高教組教文担当・古畑邦明）